



大阪市立 田辺小学校

所在地 〒546-0031 東住吉区田辺2-3-34
電話番号 06-6622-0401
HPアドレス <http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e741692>
校長名 大河 房子
標準服 有 **集団登校** 有



学校概要

明治6年の創立以来、田辺地域の方々は町や学校の発展を願って、多くの努力をはらってこられました。その心根にあるのが「町を愛する心」や「人を愛する心」にほかなりません。人情味豊かで、助け合う心の厚い田辺地域の美風は、今も地域の方々や田辺小学校の子どもたちに脈々と受け継がれています。「田辺小学校」といえば「水泳」と答えがすぐに返るほど、田辺小学校は水泳指導で有名な学校です。大小2つのプールがあり、ステップ別の学習を取り入れた授業で、子どもたちは自分の課題に合わせたコースで泳力を高めていきます。6年生は臨海学習があり、そこで1kmの遠泳に挑戦します。その達成感と仲間との連帯感は、子どもたちにとって何事にも代えがたい貴重な経験となっています。

運営に関する計画

①安全・安心な教育の推進

- 児童や保護者アンケートの結果から、いじめや規範意識に関する項目において、肯定的に回答した者の割合80%以上を維持する。
- 児童や保護者アンケートの結果から、多面的多角的な考えができることに関する項目で、肯定的に回答した者の割合を85%以上にする。

②未来を切り拓く学力・体力の向上

- 思いや考えを表現する場面を積極的に取り入れ、児童や保護者アンケートの授業に関する項目で最も肯定的な回答を50%以上にする。
- 児童や保護者アンケートの結果から、運動、健康、食育に関する項目において、肯定的に回答した者の割合を80%以上を維持する。

③学びを支える教育環境の充実

- 学習者用端末を授業や家庭学習で活用することで、児童や保護者アンケートのICTに関する項目で肯定的な回答を90%以上にする。
- 学校図書館の年間貸し出し冊数を一人30冊以上にする。

児童数・学級数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
児童数	97	96	111	98	101	82	585
学級数	3	3	3	3	3	2	17
特別支援学級							7

学力調査結果

	国語	算数
平均正答率 (%)	71	76

これまで、全国学力・学習状況調査では、5年連続して、算数・国語共に全国平均を上回っている。令和3年度の結果は、国語に関しては全国平均を大きく上回る結果となった。しかし、本校との平均の差は年々小さくなっていく傾向にある。

本校の児童の実態として、学力の学習規律が身につけている児童が多く、学習課題に意欲的に取り組むことができる。他学年の児童も6年生と同様に学習に取り組むことができ、学力面でも比較的高い傾向にある。しかし、一斉指導の中では、じっくりと課題に取り組むことができない児童や、指導者のきめ細かな支援を必要とする児童が年々増えてきている状況にある。

上記のような課題を踏まえ、加配教員を配置することにより、習熟度別少人数指導や単純2分割での指導を取り入れる。そのことにより、児童自身のペースで学習できるようにしたり、一斉学習の中では力を出し切れない児童に、きめ細かな支援を可能にしたりする。特に、新3・4年生は児童数が多く、学力的に課題を抱える児童も多い。そこで、加配教員を活用し、そのような児童にきめ細かく対応できるようにする。

※全国・大阪市の平均についてはP10を参照

体力・運動調査結果

種目別平均値	種目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
男子		17.32	20.30	33.32	37.89	49.72	9.53	149.82	19.52	52.58
女子		17.73	18.82	34.33	34.36	35.09	9.55	137.88	12.91	53.12

- 本校は「水泳田辺」を掲げ、水泳指導に全校をあげて取り組んでいる。6年生では1km遠泳が達成できるように、泳力の向上に努めている。水泳の全身的な体の動きが、児童の体力向上に大きく貢献していることは言うまでもない。
- 6年間の段階的な指導の実現に向けて、本校独自の年間指導計画を作成し、感染症対策に留意しながら、各領域の運動を児童の発達段階に合わせて取り組むことができるようにしている。また、めあてをもって運動に取り組むことができるように、ホワイトボードや学習カードを活用したり、めあてに対する振り返りの時間を設けたりしている。
- 質問紙調査では、「運動やスポーツをすることは好きですか」について、肯定的な回答をした児童が全国・大阪市平均を下回る結果となった。特に女子は大幅に下回り、否定的な回答の理由に「体育の授業でうまくいかないから」「小学校入学前から体を動かすことが苦手だから」と答える児童が多かった。このことから、児童の運動に対する自己肯定感を高めていく必要がある。それを実現させるために、教職員が各運動領域の特性を理解し、スモールステップを導入することで、児童が目標をもち、達成することができるよう場の設定の仕方や指導時の声のかけ方等、指導力向上を図る研修を行う必要がある。

※全国・大阪市の平均についてはP10を参照

保幼小中連携の状況

平成30年度から今川学園認定こども園、新生保育園と連携接続事業を行い、令和元年度末には研究成果を発表しました。1年目は指導者同士のつながりを作り、2年目には子どもたちが1年を通して5回のふれあい活動を実施しました。小学生にとっては、相手を思いやりながら言葉がけをし、未就学児にとっては、入学までの不安を解消できる取り組みとなりました。新型コロナウイルス感染防止のため、子どもたちのふれあいは実施できていませんが、実施できるようになれば交流したいと思います。また、6年生向けには田辺中学校生徒会のみなさんに来てもらい、中学校生活について話をしてもらったり、模擬授業を中学校の先生方にしてもらったりと、中学校進学に向けて連携を行っています。小中の教員で研修会などの交流も行っています。



家庭・地域との連携

田辺小学校の子どもたちのために、地域やPTAの方々はさまざまな取り組みをいただいています。子どもたちの登下校を見守る「おはようメイト」や「見守り隊」の活動をはじめ、「田辺ふれあい子どもまつり」では、地域・PTAの皆さんが一丸となって、子どもたちのために協力してきました。また、地域の方々を積極的にゲスト・ティーチャーとしてお招きし、日常ではなかなか体験できないことにチャレンジしたり、貴重なお話を聞かせていただいたりし、地域の方々からたくさんのお話を聞いています。新型コロナウイルスの影響を受け、昨年度の「ふれあい子どもまつり」は、PTAの主催で「逃走中」として代替イベントが行われました。地域総合防災訓練も毎年行われ、各地域の防災リーダーさんとともに防災学習を行っています。



子どもたちの様子・写真等

人と人とのつながり、友だちと友だちとのつながりを深めるために、田辺小学校では1～6年生が班をつくって活動する「たてわり班活動」を積極的に取り入れています。木曜日昼の「児童集会」や、たてわり班で活動する「全校遠足」、各学級が考えたゲームなどの出し物をたてわり班で回る「田辺フェスティバル」などの活動のなかで、高学年のお兄さん、お姉さんの優しくて頼りがいのある姿を見て、低学年の子どもたちは育っていきます。新型コロナウイルス感染症の影響で様々な活動が制限されてきましたが、今年度は例年のように活動できるように、たてわり班活動を以前のように積極的に行う予定です。

